

# 熊 野 遺 跡 2

福岡県八女市大字馬場字熊野所在遺跡の調査報告

八女市文化財調査報告書 第49集

1997年

八女市教育委員会

## 序

今回調査を実施しました馬場地区は、最近になって開発が急速に進み、大型店舗等の建設が相次いでいます。これに伴ってこの地区における埋蔵文化財の発掘調査も増加しているところで、今回の調査も店舗建設が計画されたため事前に発掘調査を実施したものです。

発掘調査の実施にあたりまして、(株)マルキョウにおかれましては、建築構造の変更等で文化財保護のため終始御協力いただきました。紙上を借りてお礼申し上げます。

平成9年3月31日

八女市教育委員会

教育長 樋口 欽一

## 例 言

1. 本書は八女市教育委員会が(株)マルキョウの委託を受けて実施した福岡県八女市大字馬場字熊野所在、熊野遺跡の第2次調査の報告書である。
2. 熊野遺跡の発掘調査は平成3年度調査を第1次、平成8年度調査を第2次調査として八女市教育委員会が主体となり実施した。
3. 遺構の実測は参加者で行い、現場写真は赤崎が撮影した。
4. 出土した遺物については、岩戸山歴史資料館で整理を行い、保管している。
5. 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

## 本文目次

|                     |   |
|---------------------|---|
| 1. はじめに .....       | 1 |
| 2. 位置と環境 .....      | 3 |
| 3. 発掘調査の概要と経過 ..... | 4 |

# 1. はじめに

熊野遺跡は福岡県八女市大字馬場字熊野48番地に所在する。

調査の発端は、(株)マルキョウが、当該地5,544.07㎡に店舗の建設計画をされたことによる。平成3年2月に行った試掘調査及び、平成3年10月から平成4年3月に実施した熊野遺跡第1次の発掘調査で、弥生時代を中心とした大規模な集落や墓地群が発見され、多量の遺物も出土している。今回の開発は、熊野遺跡第1次調査地点の西側隣接地で、店舗建設前の協議でも当該地にも大規模な集落や墓地群が広がっており、遺構面まで達する工事については発掘調査が必要である旨の説明を行った。しかし、当該地は1.5m以上の盛土が行われており建築工法の変更によって遺構面まで工事が達しないことが判明したため、店舗横に建設される浄化槽部分約90㎡の調査のみを実施する事とし、平成8年4月4日付けで発掘届が提出された。

発掘調査は平成8年7月8日に開始、折りからの梅雨時期と、パイルに囲まれた地下約3mでの調査となったが、平成8年7月26日調査は終了した。調査にあたり建築工事を担当した梅林建設(株)福岡支店 今村拓治所長には終始ご協力をいただき感謝申し上げます。

調査関係者は次のとおりである

大野城市 (株)マルキョウ

取締役社長

斉 田 弥太郎

八女市教育委員会

教 育 長

樋 口 欽 一

〃

小 川 勲 (2月まで)

生涯学習課長  
生涯学習課長補佐  
兼文化財係主任

杉 山 信 行

下 川 文比古

文化財係長

赤 崎 敏 男 (調査担当)

文化財係

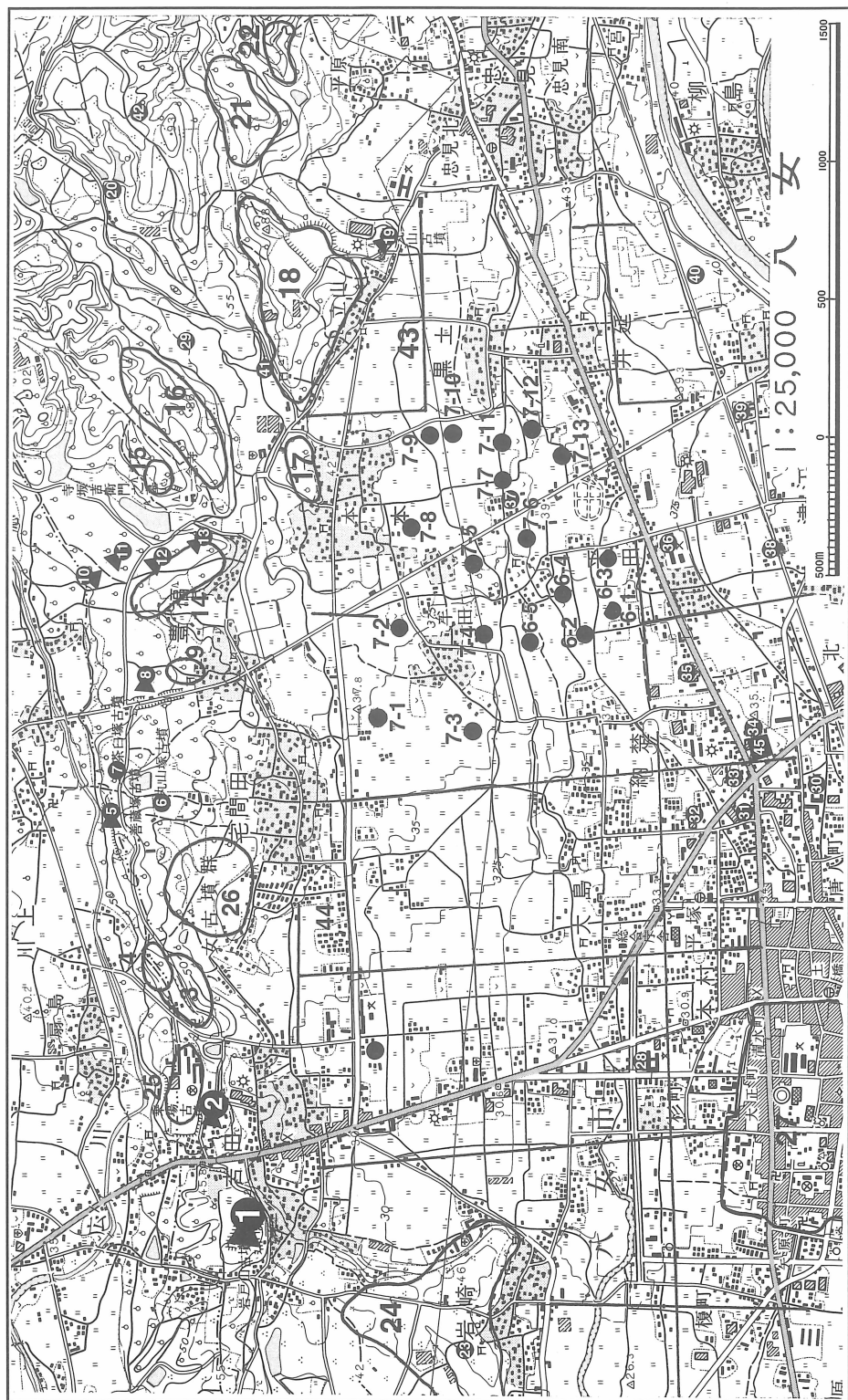
大 塚 恵 治

文化財係

中 川 寿賀子

文化財係嘱託

山 田 朗 子



1. 岩戸山古墳 2. 乗場古墳 3. 辻の西遺跡 4. 宅間田古墳群 5. 善蔵塚古墳 6. 丸山塚古墳 7. 茶臼塚古墳 8. 鶴見山古墳 9. 鶴見山南・大神宮古墳
- 10~14. 釘崎古墳群 15.16. 鹿子島山古墳群 17. 本古墳群 18. 立山山古墳群 19. 丸山古墳 20. 牛焼谷古墳群 21.22. 平原古墳群 23. 円墳 24. 岩崎遺跡
25. 福島高校遺跡 26. 宅間田遺跡 27. 福島城跡 28. 福島中学校校庭遺跡 29. 本向野遺跡 30. 鈍土羅石棺 本町遺跡 31.33. 赤氏遺跡 32. 万上田遺跡
34. 熊野遺跡 35. 高島遺跡 36. 後ノ江遺跡 37. 口ノ坪遺跡 38. 津ノ江遺跡 39. 折袴院遺跡 40. 高野町遺跡 41. 立山山墳輪窯跡 42. 中尾谷窯跡群
43. 忠見地区桑里 44. 長峰地区桑里 6-1. 平田・六反田遺跡 1 地点 6-2. 平田・六反田遺跡 2 地点 6-3. 北ノ節遺跡 6-4. 野内遺跡 6-5. 西原遺跡 7-1. 餅田遺跡
- 7-2. 枕林遺跡 7-3. 丁ノ坪遺跡 7-4. 永尾遺跡 7-5. 千松遺跡 7-6. 尺取遺跡 7-7. 口ノ坪遺跡 7-8. 大門遺跡 7-9. 石仏遺跡 7-10. 大林遺跡 7-11. 十郎丸遺跡
- 7-12. 野ノ内遺跡 7-13. 春田遺跡 45. 熊野遺跡 2 次

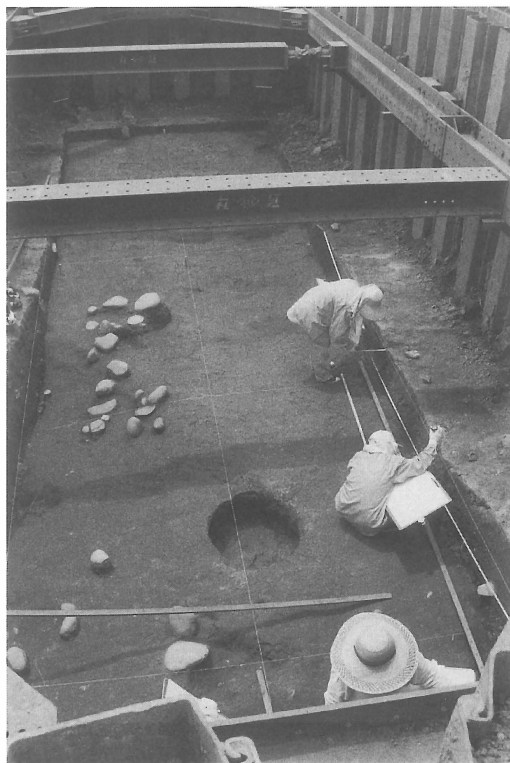
第1図 熊野遺跡（2次調査）周辺の遺跡分布図（1/25,000）

## 2. 位置と環境

熊野遺跡は、矢部川によって形成されたほぼ東西にのびる低位の段丘上にある。付近の標高は35m前後で、東から西に向かってわずかずつであるが標高を下げる。

遺跡の西側には国道3号線が南北に走り、北側には国道442号線が東西に走るという交通の要所である。このため、最近になって周辺は市街地化が進み、店舗や工場が多く建設され、これに伴って埋蔵文化財の発掘調査も増加している。

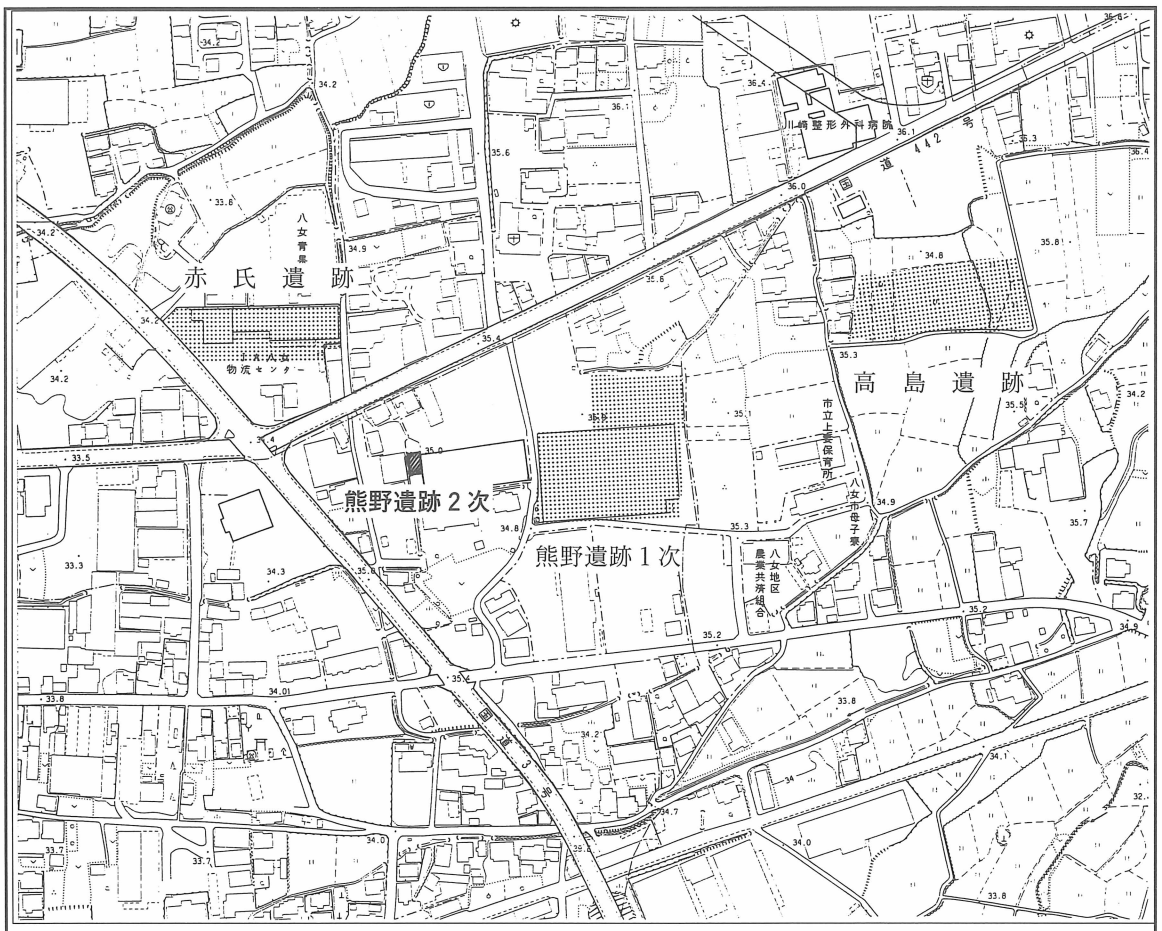
周辺の遺跡を概観すると、弥生時代の遺跡として東側に隣接した熊野遺跡第1次調査地点では、平成3年から平成4年にかけての調査で弥生時代を中心として竪穴住居、貯蔵穴、溝、環濠、墳墓が、古墳時代では竪穴式石室を主体部とする古墳と竪穴住居が発見されている。国道を隔てて北側に隣接する赤氏遺跡からも、平成2年の調査で弥生時代の竪穴住居、掘立柱建物などが発見されている。熊野遺跡の北側一帯からは、平成6年から始まった八女東部地区圃場整備事業に伴う発掘調査で、弥生時代から古墳時代、歴史時代の遺跡が数多く発見された。特に平成6年の調査で平田・六反田遺跡、北ノ前遺跡から弥生時代の竪穴住居群、掘立柱建物群、古墳時代の豪族居館が発見された。さらに、平成8年には東側200mの高島遺跡から竪穴住居、貯蔵穴、溝と、北西から南東に流れる自然河川が発見され、河川中より多量の土器と石器が出土している。また、南西200mの所には、胸高周囲15.2m、根回り31.2m、樹高30.2mの県指定天然記念物、「鈍土羅の樟」(昭和28年12月3日指定)がその威姿を誇っている。この樟の根元より内部に朱をほどこした石棺が出土しており、現在根元に置かれている。「鈍土羅の樟」の傍には江戸時代、久留米城下から黒木に至り、矢部川沿いに矢部村を通り、豊後・日田郡に入る豊後別路があり、江戸時代に於いても交通の要所であった。



第2図 熊野遺跡(2次調査)  
調査風景〔北から〕

### 3. 発掘調査の概要と経過

調査地点は、店舗の西側に付属する浄化槽建設部分であり、第1次調査と試掘調査によって旧河川がこの部分まで延びていると思われた。調査は限られた地点であり、調査面積も狭く、深さも3m程になる可能性があったため、通常の調査方法では危険が伴うと判断して、調査地点の周りにパイルを最初に打ち込み、その中を掘削するという方法をとった。遺構面までの土をバックホーで除去した後、鉄骨により梁等を敷設し、その後ベルトコンベアーを用いて遺構の掘り下げを行った。調査の結果、第1次調査地点から延びた旧河川の底部分が検出され、弥生式土器が多量に出土した。



第3図 熊野遺跡（2次調査）調査位置図（1/5,000）

## 1. 調査経過

平成8年7月2日、本日よりバックホーを入れ、掘削の結果地表下約2.5m程になる。遺構面は旧河川らしく多量の土器が検出される。

7月8日、本日より調査を開始する。各現場より器材を運搬し、一部手作業で掘削の結果、多量の土器が出土する。

7月9日掘削の結果、多量の土器が出土する。堆積の土量が多く、ベルトコンベアーを入れる事にする。

7月11日、ベルトコンベアーを入れて排土し、ようやく地山面が確認される。南側は遺物が少なく、地山は北側に少し下がり土器の出土が多くなる。旧河川底付近より筒型器台出土。

7月12日、旧河川の中を堀下げる。黒色土と砂質土があり、砂質土中からの遺物の出土が多い。

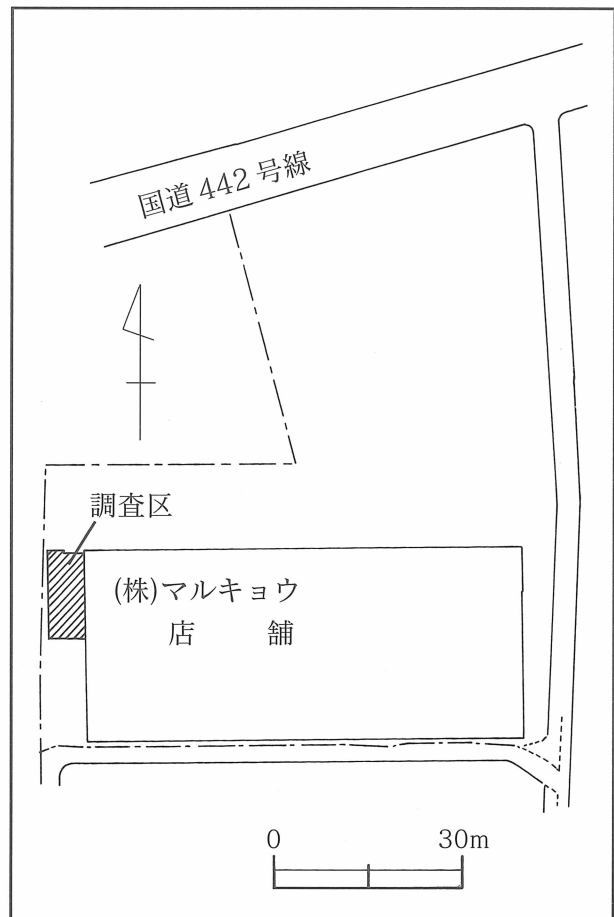
7月15日、旧河川の中を堀下げる。相変わらず砂質土からの遺物の出土が多い。底付近より石剣が出土。

7月17日、旧河川の中をほぼ堀下げ終了。午後より写真撮影を行う。その後、実測のため基準点を設置し、近くより水準点を移動する。

7月18日、本日より実測を開始する。

7月22日、先日来の雨のため、底に溜まった水を排水。その後、実測を続ける。

7月26日、周辺の平板実測を行う。終了後、器材、出土遺物を運搬して調査を終わる。



第4図 熊野遺跡（2次調査）調査位置図  
(S = 1/1,200)

## 2. 遺 構

今回の調査区は狭いため、遺構として検出されたのは旧河川のみであった。また、旧河川も全体を確認できず、わずかに底部付近を調査したにすぎない。

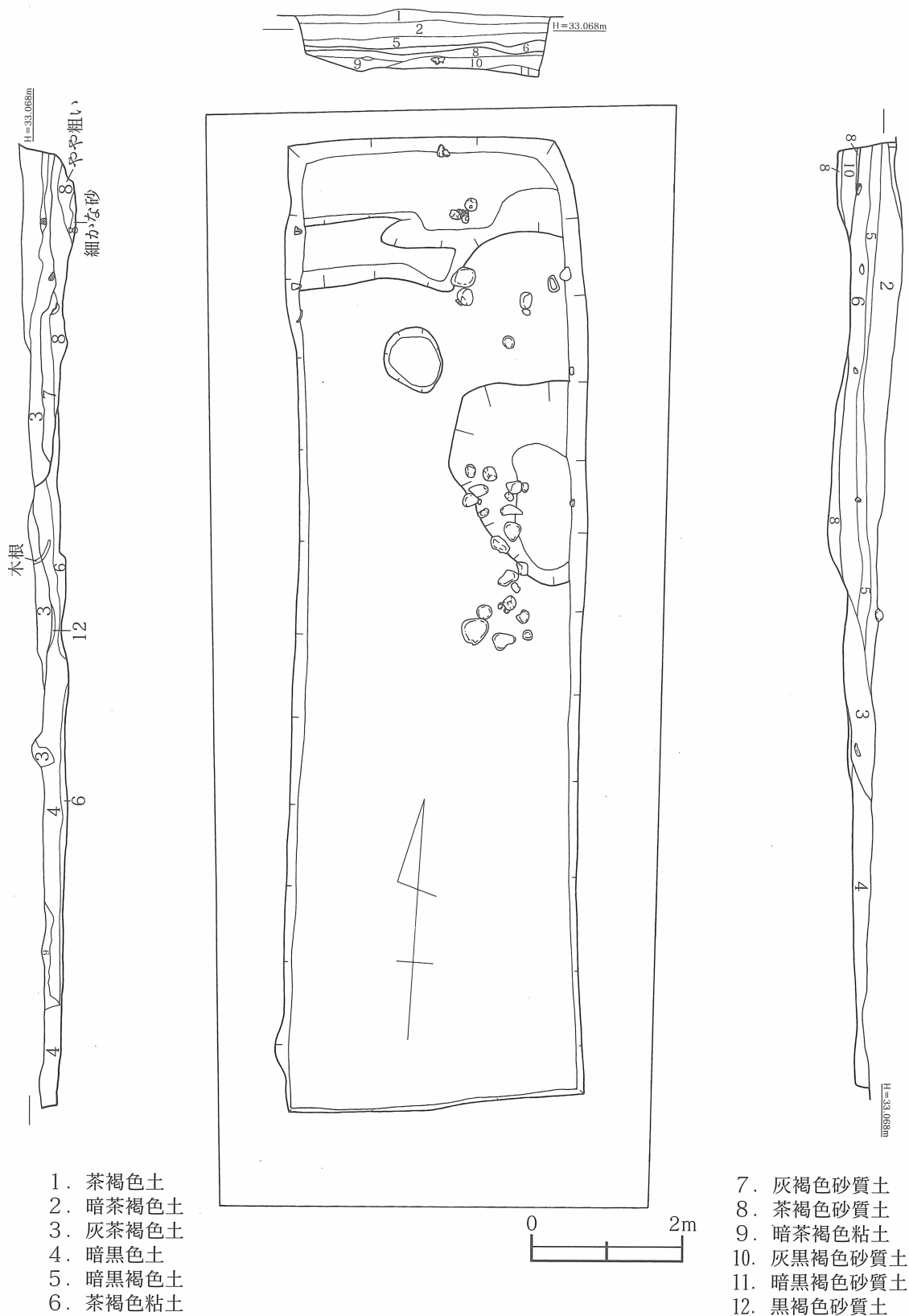
### 旧河川（第6図）

熊野遺跡第1次調査では南東側から西側にかけて幅10m以上の旧河川が検出されており、西側に向かって幅を大きくする。今回調査で発見された旧河川は第1次調査で検出された旧河川の延長部と思われる、調査区のほぼ全体が旧河川の中に入ると思われる。

調査区の土層を見ると、旧河川は、南に向かって自然傾斜する暗黒色土を切り込んでおり、人為的に大きく2回にわたって改変が加えられている。1回目は暗黒色土を切り込んだ時期で、2回目は灰茶褐色土を切り込んだ時期にあたる。2回目は1回目より狭くなり、長期間使用されたものと考えられる。旧河川最下部は凹凸があり、凹の部分に堆積した茶褐色砂質土には多量の土器を含む。茶褐色砂質土の上部には、遺物をほとんど含まない茶褐色粘土と灰茶褐色土、その上部には土器の細片を多く含む暗黒褐色土、土器を多く含む暗茶褐色土がある。土層の観察によって、最下部の茶褐色砂質土以外は、自然に流れた形跡が見られず、茶褐色粘土から上部は整地された可能性も考えられる。



第5図 熊野遺跡（2次調査）発掘前〔北より〕



第6図 熊野遺跡（2次調査）平面図及び土層図（1/80）

### 3 遺 物

#### 出土遺物

#### 中 期

#### 甕形土器 (第7図)

I 類は2つに区分できる。

I 類 a (1) 口縁部が外反するいわゆる如意状口縁で、口縁下に一条の沈線を巡らす。外面は刷毛目調整が良く残り、刷毛目調整後に沈線を施している。内面はわずかではあるが、刷毛目調整が残る。

I 類 b (2-7) 口縁部は直立又はやや内彎する。口縁部の上端外面に粘土帯を貼り付け、上面を水平に仕上げ、口縁下に一条の沈線を巡らす。口縁の上面は横なでによって水平に仕上っている。外面は刷毛目調整が残り、刷毛目調整後に沈線を施している。内面はわずかに刷毛目調整、指痕が残る。

II 類 b (第7図8-15, 第9図1-4) I 類 b と同様口縁部は直立又は脚部付近よりやや内彎する。口縁部の上端外面に粘土帯を貼り付け、上面を水平、あるいはやや外側に下がり気味に仕上げる。この時期の口縁部の上端外面の粘土帯には、粘土帯を肥大させるものや、口縁下には形骸化した貼り付けの突帯を持つものもある。外面は縦方向の刷毛目調整が残り、一部横方向の刷毛目調整が見られる。内面はわずかに刷毛目調整が残る。

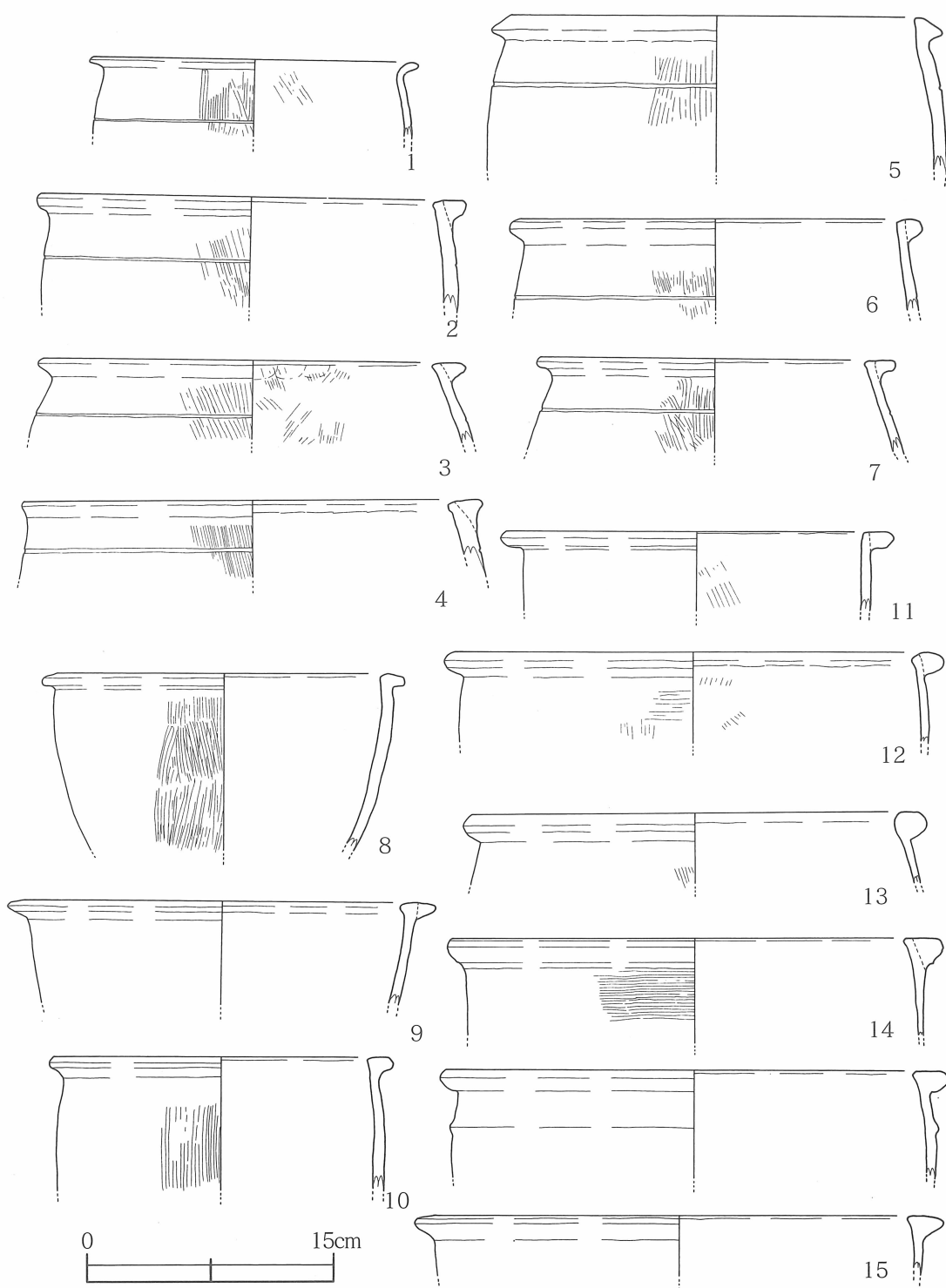
III 類 a (第9図 ) (10) 口縁部がL字状となるもので量的には少ない。外面は縦方向の刷毛目調整が行われている。

III 類 b (第9図 ) (5-9) 口縁部はほぼ直立し「T」字形になるが、内唇がわずかに張り出すもので、口縁部の上端は平坦かやや凹むもの、外側に大きくはね上げるものがある。外面は縦方向の刷毛目調整が残る。また、丹塗土器もあり、口縁部に刻目を施している。

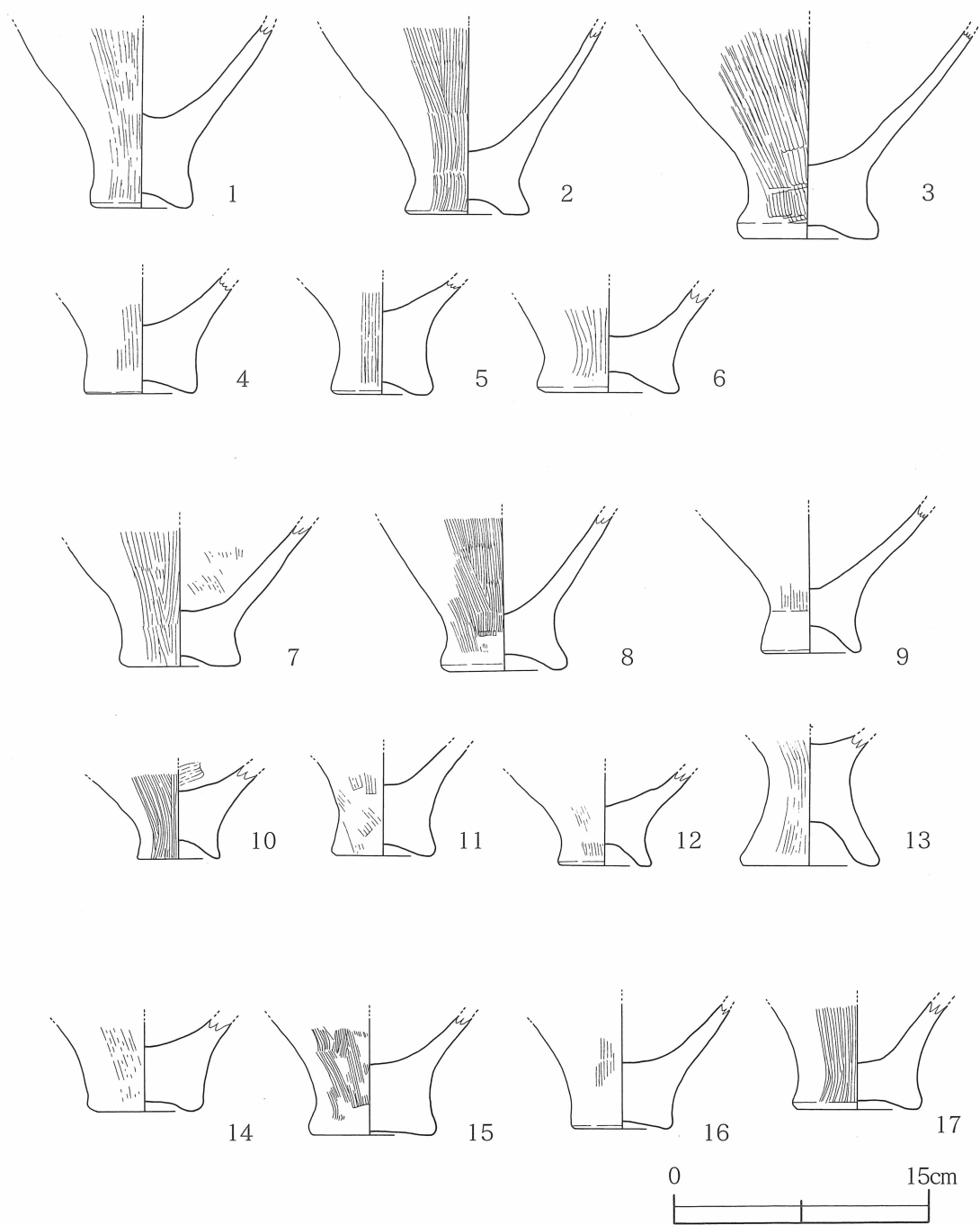
#### 甕形土器底部 (第8図 )

甕形土器の底部は形態によって3つに分類できるが、どの口縁部と一致するかは不明である。

I 類 (1-6) 胴部から底部にかけて細く締まり、底部の径は比較的小さく、わずかに上げ底に



第7図 旧河川 出土土器 (1/4)



第8図 旧河川 出土土器 (1/4)

なる。端部はほぼ平坦につくられる。外面は縦方向の刷毛目調整、内面と底内側はなで調整が行われている。

Ⅱ類 (7-13) I類と同様胴部から底部にかけて細く締まり、底部の径は比較的小さい。底はやや高い上げ底になり、端部は丸くつくられる。外面は縦方向の刷毛目調整、内面はなで調整が多いが刷毛目調整も少量ある。底内側はなで調整が行われている。

Ⅲ類 (14-17) I・Ⅱ類と比較して、底部の径が大きくなり、底はわずかな上げ底になる。端部は丸くつくられる。外面は縦方向の刷毛目調整、内面と底内側はなで調整が行われている。

#### 壺形土器 (第10図)

壺形土器の出土は量的に少ないが、口縁の形態により2つに区分できる。

I類 (12.11-13) 口縁部が外に大きく開くいわゆる如意状口縁で、口縁は厚くつくられる。口縁端部は丸くつくり、口唇端は沈線状の凹みが見られる。外面は刷毛目調整後へら磨きで、内面はへら磨きで調整している。

Ⅱ類 (3) 無頸の壺で、胴部より強く屈曲する。口縁部は口唇部の上端外面に粘土帯を貼り付け、さらに胴部にも形骸化した突帯を巡らしている。

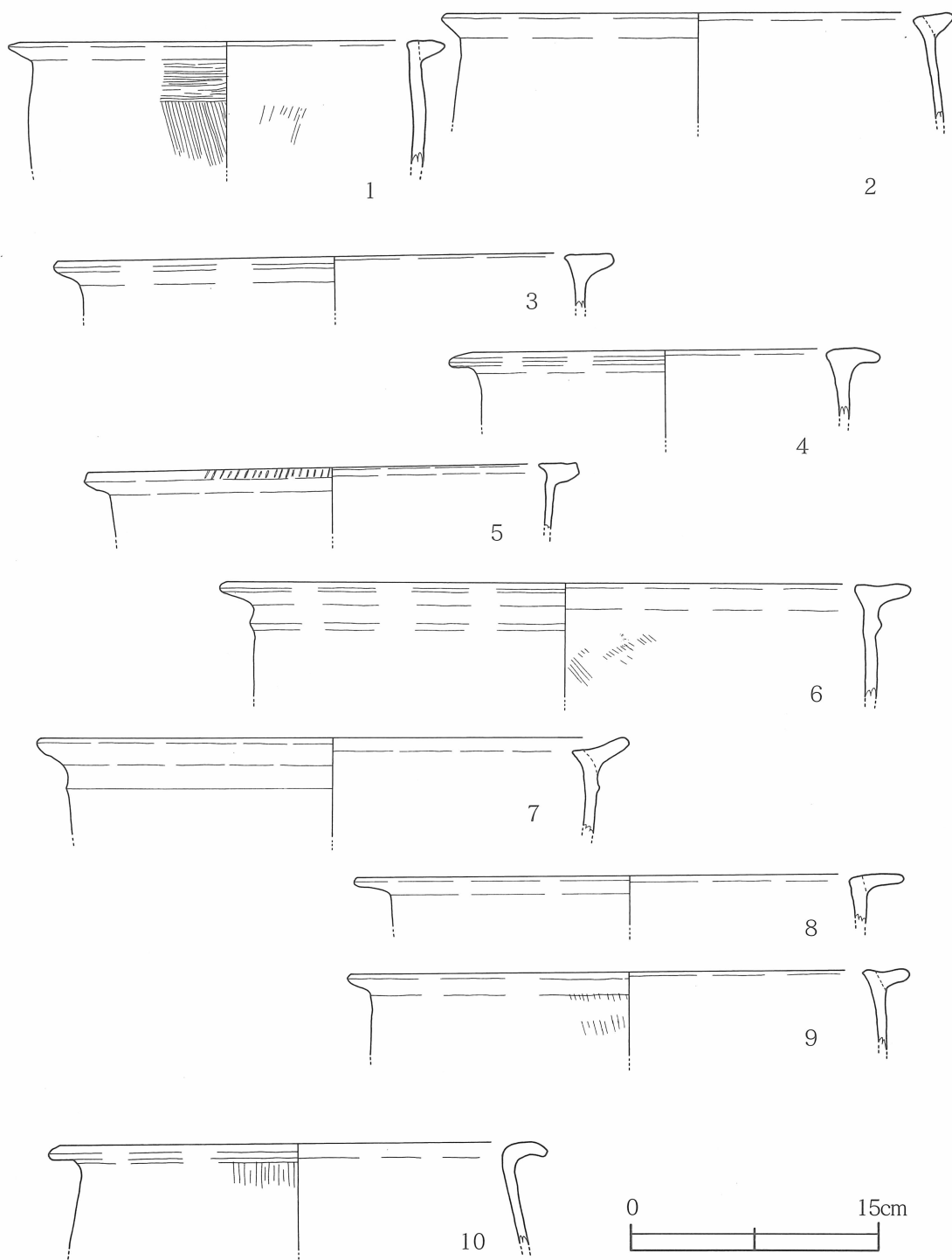
#### 鉢形土器 (第10図)

鉢形土器は口縁部の形態により3つに区分できる。

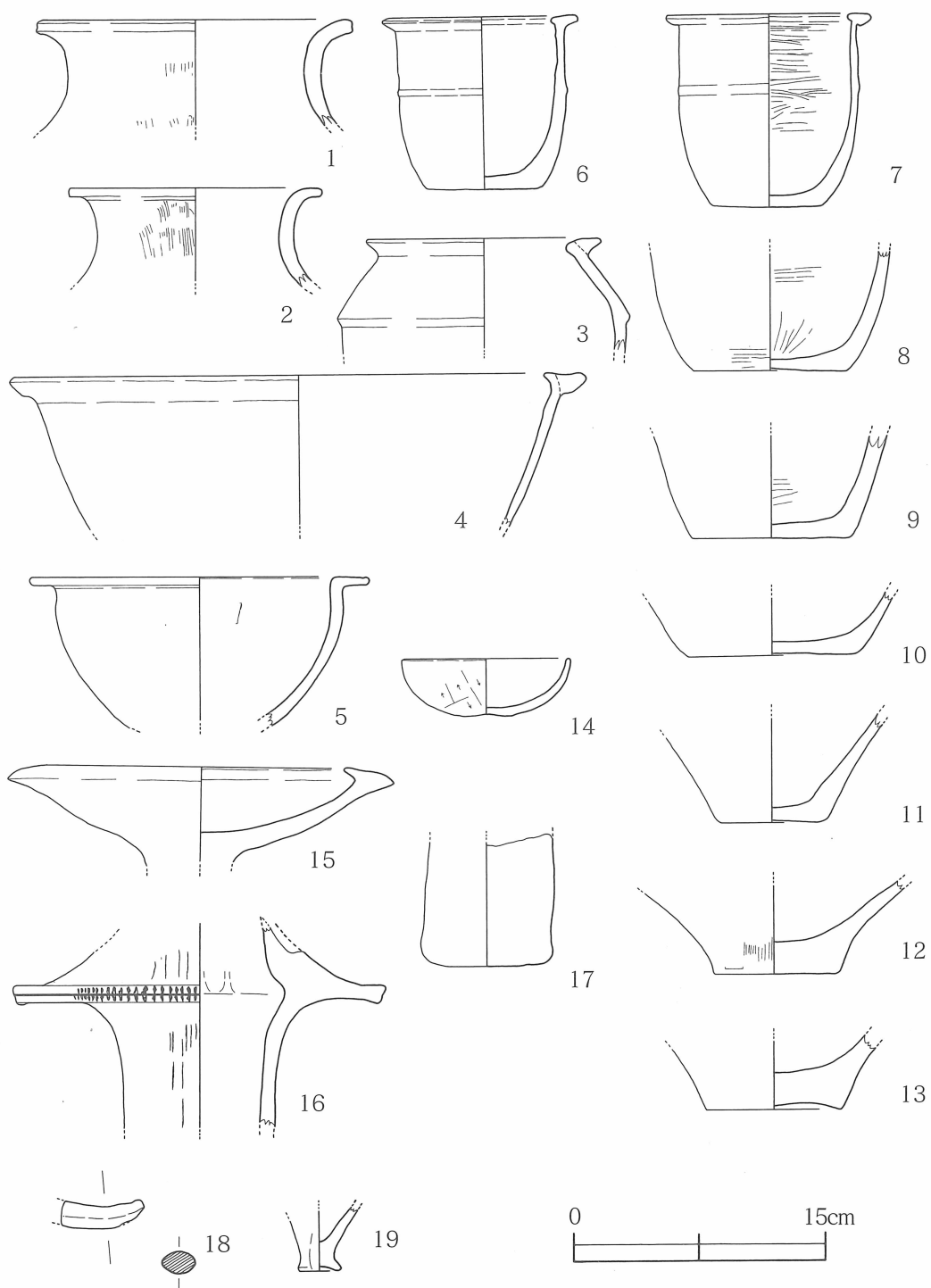
I類 (4) 外側にほぼ直線的に開き、口縁部は丸くつくり、甕形土器Ⅲ類bと同様なつくりとなる。

Ⅱ類 (5) 外側は丸く立ち上がり、口縁部は甕形土器Ⅲ類aと同じ「L」字状になる。外面の調整は不明であるが、内面はなで調整が行われている。

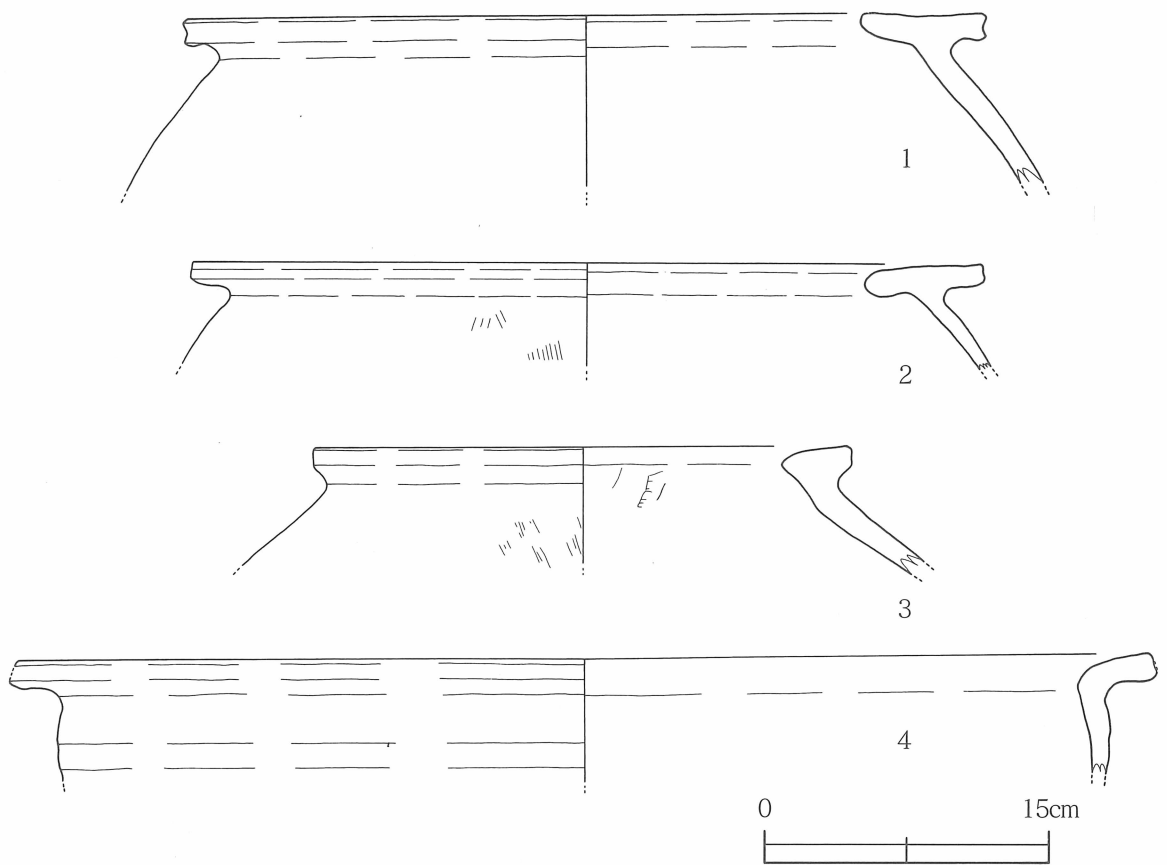
Ⅲ類 (6-10) 完形品で多くは小型である。底部から口縁部にかけてほぼ直立し、甕形土器Ⅱ類bの口縁にちかい。胴部中程にわずかに盛り上がる形骸化した突帯が巡る。底は平坦につくられる。



第9図 旧河川 出土土器 (1/4)



第10図 旧河川 出土土器 (1/4)



第11図 旧河川 出土土器 (1/4)

#### 埴形土器 (第10図14)

埴形土器はわずか一点のみの出土。底から丸く立ち上がる。外面はへら磨きで調整される。

#### 高杯 (第10図15)

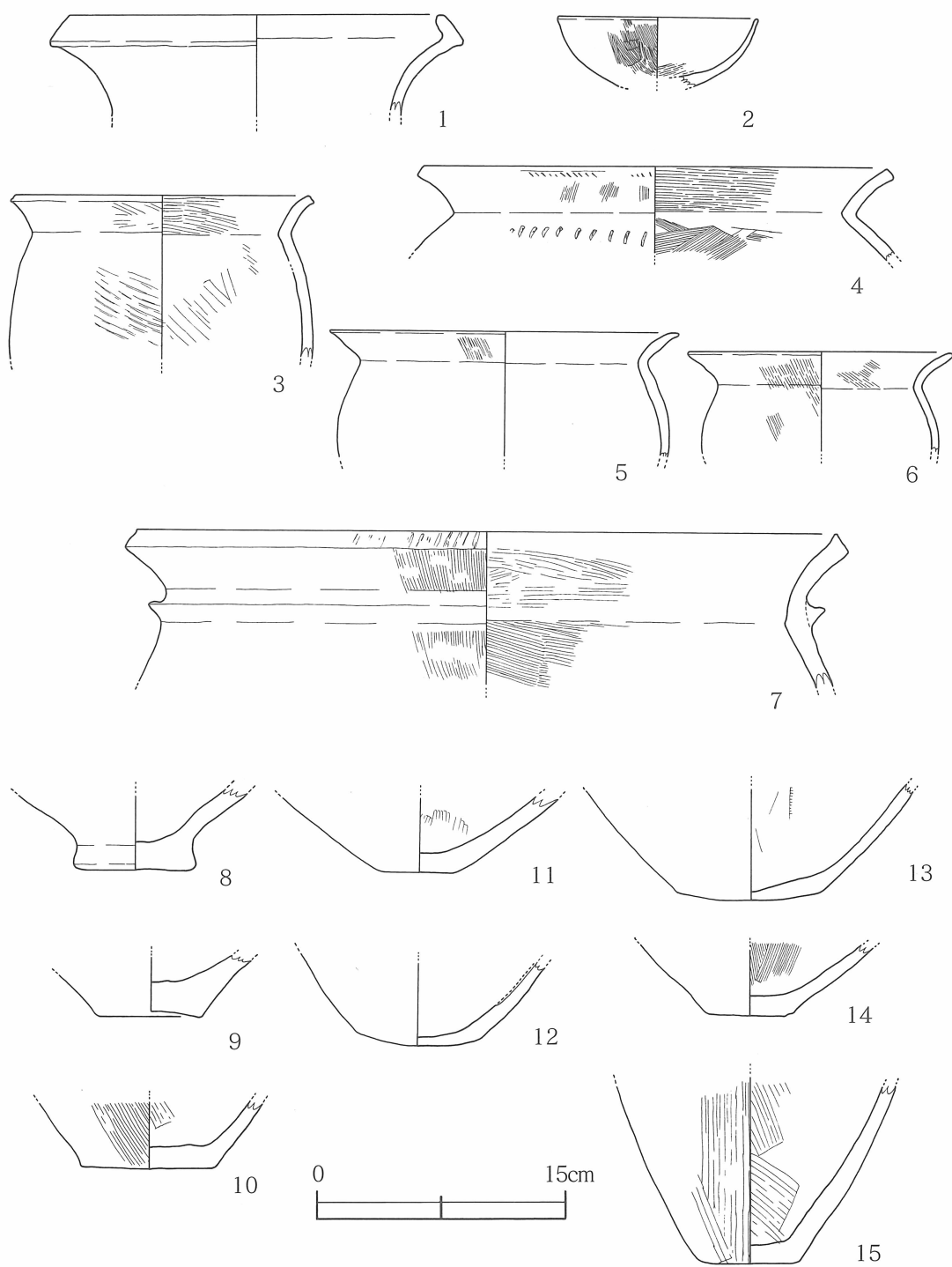
脚部の長い高杯と思われる。杯部が薄くつくられ口縁部は「T」字形か外方にやや下がり気味になる。内外面ともなで調整。

#### 筒形器台 (第10図16)

罌部が直径22cmの筒形器台である。罌端部には刻み目を施し、罌部上側と脚部には外面に暗文が施されている。外面は全体にへら磨きによって調整され、内面は筒部と罌部の接合部に指痕が残り、その他はなで調整される。外面筒部には全面に丹塗が残っている。

#### 支脚 (第10図17)

土製の支脚はわずか一点のみの出土。全体になで調整によって仕上げられている。



第12図 旧河川 出土土器 (1/4)

土製品 (第10図)

杓子 (18) 杓子の取っ手部分である。

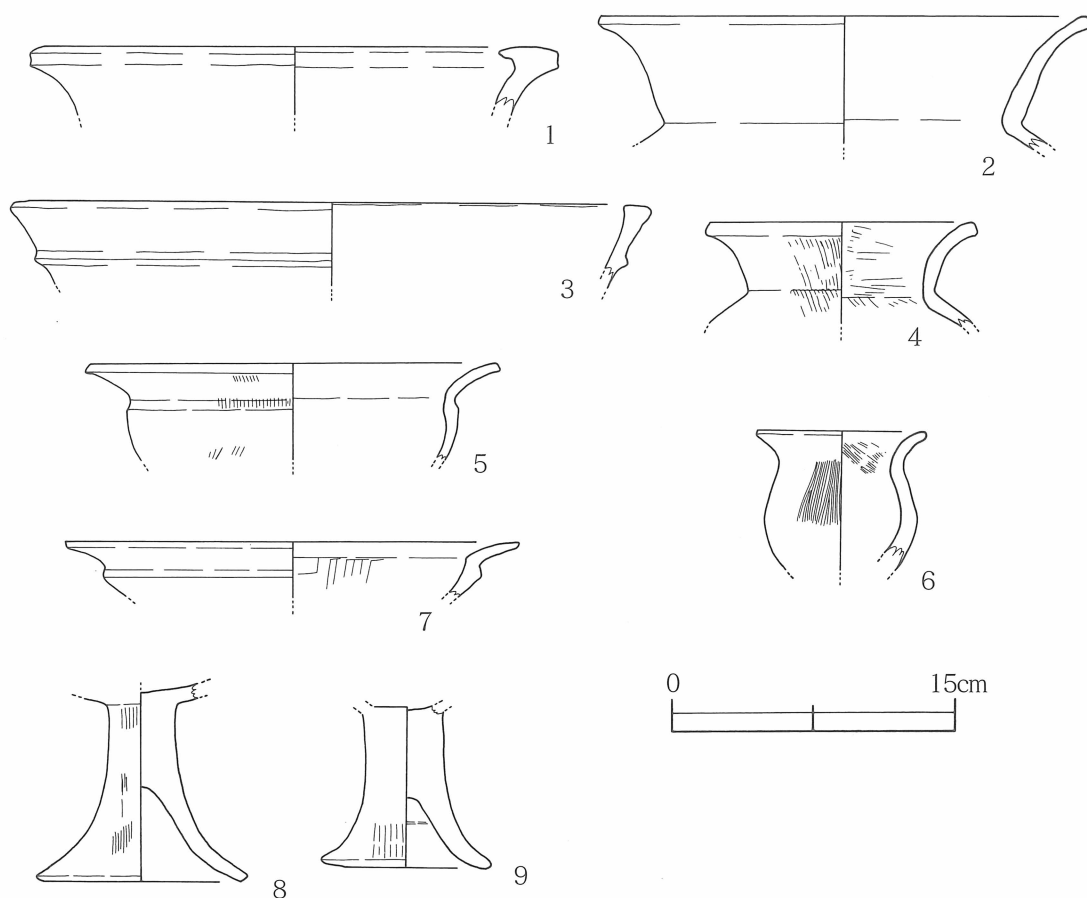
小型甕形土器 (19)

甕形土器のミニチュア品で底部は上げ底となる。内外ともなでによって仕上っている。

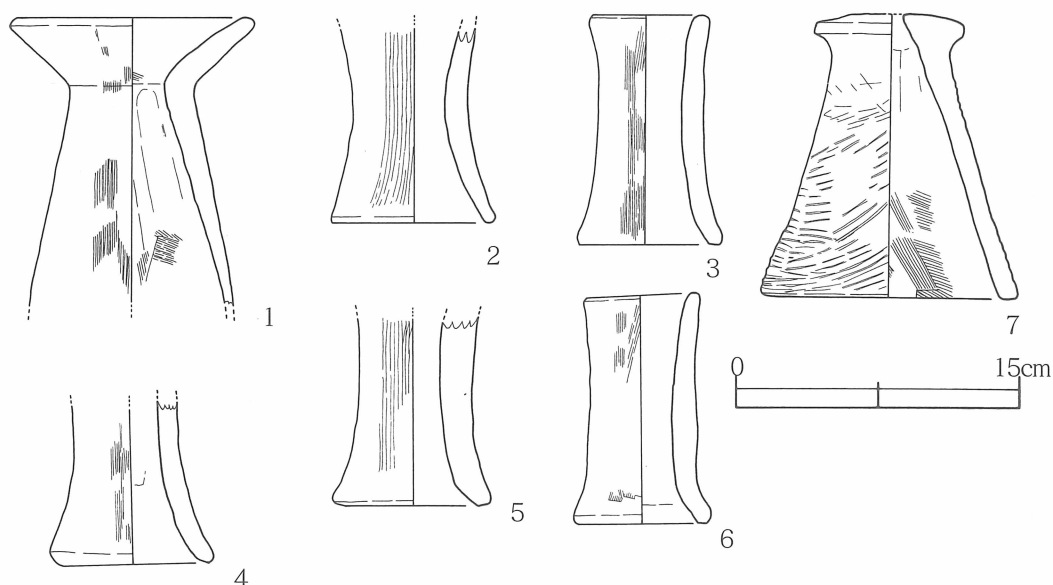
大型甕形土器 (第11図)

大型甕形土器は3つに区分できる。

I 類b (1, 2) 直径42cmで、胴部は丸みを帯びる。口縁部は「T」字形となり、うち唇が大きく張り出す。端部は厚く丸みを帯びる。口縁上端はほぼ水平に作られ、外唇は厚みがあり端部は凹み状になる。外面胴部は刷毛目、口縁付近と内面はなでによって仕上っている。



第13図 旧河川 出土土器 (1/4)



第14図 旧河川 出土土器 (1/4)

Ⅱ類b (3) 直径28cm前後で、胴部は丸みが強い。口縁部は「T」字形となるが内唇の張りが少なく直線的になる。外面胴部は刷毛目、口縁付近はなで、内面はなで後に刷毛目によって仕上げている。

Ⅲ類a (4) 直径60cm以上の大型甕で、胴部から口縁部までほぼ直立し口縁部は「L」字形となる。

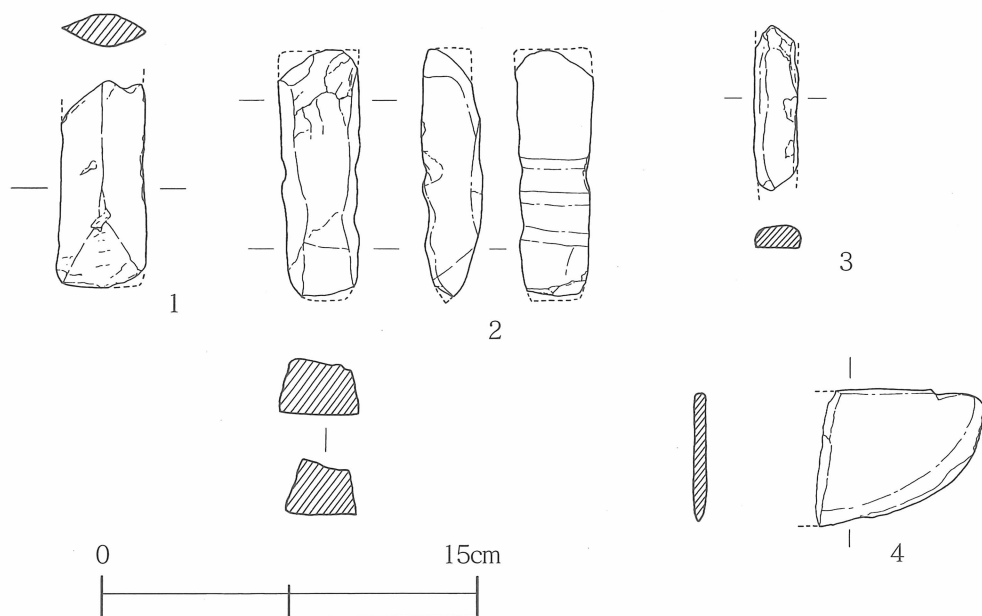
## 後期

### 甕形土器 (第12図)

甕形土器は、胴部の張るものと張らないものに区分できる。

Ⅰ類 (3.5.6.8-15) 胴部があまり張らず、口縁部が「く」の字形に外反する。外面口縁と内面は荒い刷毛目調整で仕上げている。

Ⅱ類b (4) 胴部が強く張り、球形になると思われる。口縁部は「く」の字形に外反する。外



第15図 旧河川 出土石器 (1/4)

面は刷毛目で仕上げ頸部に刺突文が、口縁部には刻目が施されている。内面口縁部分は荒い刷毛目、胴部は細かな刷毛目調整で仕上げている。

#### 大型甕形土器 (第13図 )

(5) 直径43cmで、口縁部は直立するような「く」の字形に大きく外反し、口縁部の下には高い三角形の突帯を巡らす。口唇部には刻目を施している。内外面とも荒い刷毛目によって仕上げている。

#### 壺形土器 (第12図, 第13図 )

壺形土器の出土は量的に少ないが、口縁の形態により2つに区分できる。

Ⅰ類 (第12図1, 第13図1) 口縁部が袋状口縁で、丸みを帯びた鋤先口縁と、「く」字形に折れた口縁のものがある。

Ⅱ類 (第13図2, 4 ) (1) 口縁部は大きく外反し「く」字形に折れ、胴部は球形になると思われる。全体に刷毛目調整が行われている。

### 鉢形土器（第13図）

(3) 鉢形土器の口縁部は外側にほぼ直線的に開き、口唇部は平坦につくる。口縁部下に三角形の突帯を巡らす。

### 高杯（第13図6-9）

杯部と脚部がある。杯部は胴部より明瞭な段をつけて強く外反する。脚部は短く端部はやや厚く丸みを持っている。杯部外面は刷毛目と横なで、内面はへら状のものでなでによって仕上げられている。

### 器台（第14図）

器台は形によって大きく2つに分けられる。

I類(1) 両端とも大きく外方に開き鼓状となる。外面は刷毛目がよく残り、内面はなでと刷毛目によって調整されている。

II類(2-6) 両端ともほぼ同じ様に筒状に開く。外面は刷毛目、内面はなでによって調整されている。

### 支脚（第14図7）

上端がすぼまったもので、上端中央部に穴があげられている。外面は荒いたたき目で、上部は刷毛目調整、内部上面はしぼり痕が残り、下部は刷毛目調整によって仕上げられている。

### 石器（第15図）

石器の発見は少なく武器として石剣、加工具として石斧、収穫具として石庖丁が発見された。その他、黒曜石片、サヌカイト片も多く発見されている。

#### 石剣

(1) 長さ8.5cm、幅3.5cm、厚さ1.3cmで粘板岩で作られており、石剣の柄に近い部分と思われる。上端は欠損しているが、下端は擦り切りの痕が残る。断面は丸みを持った菱形となる。

#### 石斧

(2) 柱状片刃石斧（挟入石斧）長さ10cm、幅3.2cm、厚さ2.2cmで硬質の砂岩で作られており、一部を欠くが完形品である。片面には2段の挟りがあるが、もう片面には剝離面が残り、

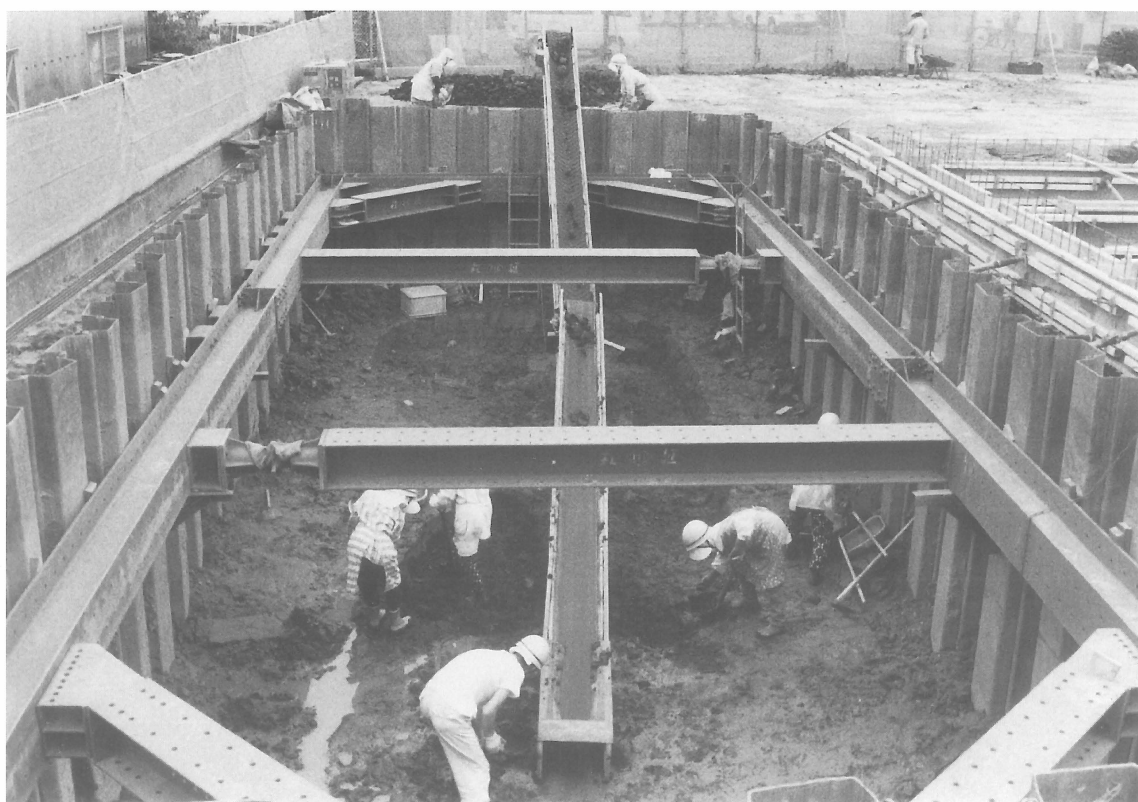
刃を研ぎ出していない点から未製品と思われる。

(3) 片刃石斧 小型のみ状の片刃石斧で、両端を欠くが長さ6.7cm、幅1.8cm、厚さ0.9cmで硬質の砂岩で作られている。四面の内一面のみを研磨している他、石の自然面が二面残っており、刃を研ぎ出していない点からも未製品と思われる。

(4) 石庖丁 半月形の石庖丁のほぼ二分の一が残る。孔の部分は確認できないが両面の刃を研ぎ出しており、製品と思われる。薄いつくりで地元で多く採集される片岩を用いている。

# 版 図

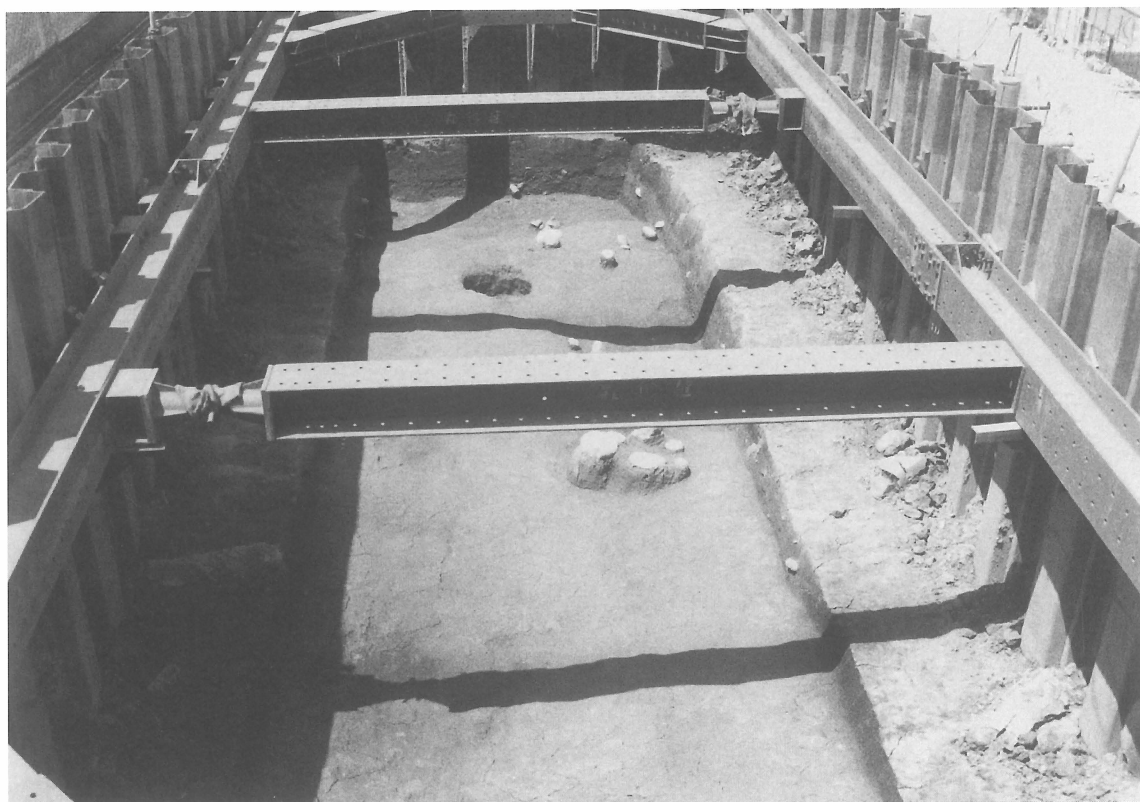




図版1 熊野遺跡（2次調査）発掘風景〔南より〕



図版2 熊野遺跡（2次調査）全景〔北より〕



図版3 熊野遺跡（2次調査）全景〔南より〕



図版4 熊野遺跡（2次調査）旧河川〔南より〕



図版5 熊野遺跡（2次調査）旧河川 堆積状況〔東より〕



図版6 熊野遺跡（2次調査）旧河川 筒形器台出土状態

# 報告書抄録

|                    |                   |                                    |         |            |                                   |                               |                 |      |
|--------------------|-------------------|------------------------------------|---------|------------|-----------------------------------|-------------------------------|-----------------|------|
| ふりがな               |                   | くまの いせき                            |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 書名                 |                   | 熊 野 遺 跡 2                          |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 副 書 名              |                   | 福岡県八女市大字馬場字熊野所在遺跡の2次調査報告           |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 巻次                 |                   |                                    |         |            |                                   |                               |                 |      |
| シリーズ名              |                   | 八女市文化財調査報告書                        |         |            |                                   |                               |                 |      |
| シリーズ番号             |                   | 第 49 集                             |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 編 著 者 名            |                   | 赤 崎 敏 男                            |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 編 集 機 関            |                   | 八女市教育委員会                           |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 所 在 地              |                   | 834 福岡県八女市大字本町647 TEL 0943-23-1111 |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 発 行 年 月 日          |                   | 西暦 1997年3月31日                      |         |            |                                   |                               |                 |      |
| ふりがな               | ふりがな              | コ ー ド                              |         | 北 緯        | 東 経                               | 調査期間                          | 調査面積            | 調査原因 |
| 所収遺跡名              | 所 在 地             | 市町村                                | 遺 跡 番 号 | ° , ' , '' | ° , ' , ''                        |                               |                 |      |
| くまの<br>熊野遺跡        | ふくおかけん<br>福岡県     |                                    |         | 33°12'35"  | 130°34'25"                        | 1996.07.08<br>~<br>1996.07.26 | 90㎡             | 店舗建設 |
| 2次調査               | やめし ぼぼ<br>八女市大字馬場 |                                    |         |            |                                   |                               |                 |      |
|                    | くまの<br>字熊野        |                                    |         |            |                                   |                               |                 |      |
| 所収遺跡名              | 種 別               | 主な時代                               | 主 な 遺 跡 |            | 主 な 遺 物                           |                               | 特 記 事 項         |      |
| 熊 野 遺 跡<br>2 次 調 査 | 集 落               | 弥生時代                               | 旧河川     |            | 弥生式土器<br>石器 { 石 剣<br>石 斧<br>石庖丁 } |                               | 店舗浄化槽部分のみ<br>調査 |      |

熊 野 遺 跡 2  
八女市文化財調査報告書

第 49 集

発 行 八女市教育委員会  
八女市大字本町 6 4 7  
印 刷 橋 爪 印 刷  
八女市大字吉田 1899-1